

行田歴史系譜

342

資料がかる 行田の歴史

42

どこから出土？ 謎の注口土器 「旧さきたま考古館展示土器類」より



「旧さきたま考古館展示土器類」注口土器 (行田市郷土博物館蔵)

市指定文化財「旧さきたま考古館展示土器類」の中には多くの縄文土器類も含まれます。市内の縄文遺跡はあまり知られていませんが、旧埼玉村域であった地域の埋没台地縁辺部には縄文時代前期から後期にかけて幾度となく小規模ながら集落が営まれました。「旧さきたま考古館」には、当時、こうした遺跡から出土したと考えられるさまざまな型式の縄文土器片が収蔵展示されていました。

盤玉のように膨らんだ壺のような形で、底径は約3センチメートルと小さく、一番膨らんだ部分の径が約19センチメートルとやや安定性に欠けるフォルムです。注口土器というのは、縄文時代中期から後期、晩期にかけて見られた縄文土器の種類です。土瓶形の他、壺・鉢に注ぎ口部分が付いた形などがあります。この注口土器は後者ですが、注口部分は欠けてしまっています。型式は安行Ⅰ式という縄文時代後期終わりごろの型式に分類されます。この頃の土器に特徴的な縄文が施された粘土帯の上に瘤状の裝飾も見られます。

この注口土器ですが、不思議なのはその出土地です。台帳などの資料によると、この土器の出土場所は「谷郷」となっており、地域の収集家の手を経て「旧さきたま考古館」へやってきたようです。しかし、谷郷地内には現在のところ縄文時代の遺跡は見つかっていません。隣接する桜町二丁目には県立進修館高等学校周辺に馬場裏遺跡があり、縄文時代前期〜後期初めごろの遺構が検出されていますが、後期終わりごろの遺構は未検出です。この注口土器を使っていた人々は、一体どこでどのような暮らしを営んでいたのでしょうか。行田市の古代にはまだまだ謎が残されています。

(郷土博物館 浅見貞子)

はじめまして



令和3年11月生まれのお子さんを募集します

- 9月1日(休)〜30日(金)に電話またはEメールで広報広聴課(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
応募者多数の場合は、10月3日(午)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



令和3年9月生まれのおともだち



岩城 暁斗ちゃん(藤原町)
令和3年9月13日生まれ
父・諒さん 母・優華さん
「生まれてきてくれてありがとうと1周りを照らすくらい笑顔がいつまでも☆」



鈴木 陽葵ちゃん(城西)
令和3年9月1日生まれ
父・健太さん 母・佑菜さん
「いつまでもママとパパの宝物」



堀井 紬希ちゃん(桜町)
令和3年9月16日生まれ
父・良一さん 母・麻友さん
「姉妹なかよく 元気に育ってね☆」



福田 真生ちゃん(長野)
令和3年9月6日生まれ
父・健憲さん 母・美田紀さん
「みおの笑顔は元気の源♡」



川口 千嘉ちゃん(藤間)
令和3年9月7日生まれ
父・暁さん 母・倫子さん
「たくさん喜びをありがとうと1！大好きだよ♡」



白石 莉子ちゃん(藤原町)
令和3年9月26日生まれ
父・拓也さん 母・千佐都さん
「生まれてきてありがとうと。大好きだよ♡」

今月の表紙

9月20日〜26日は動物愛護週間です。家族の一員であるかわいいペット。しかし、年間1万頭(匹)以上の犬・猫が飼い主から手放されているのが現状です。
ペットを飼うことは動物の命を預かることです。人と動物が幸せな一生を過ごすために、私たちがすべきことについて考えてみましょう。

ホームページ https://www.city.gyoda.lg.jp



行田市のマイナンバーカード交付率37.7% (8月1日現在)



詳細は総務部ホームページ



環境にやさしい 植物油インキ

市報ぎょうだは再生紙を使用しています